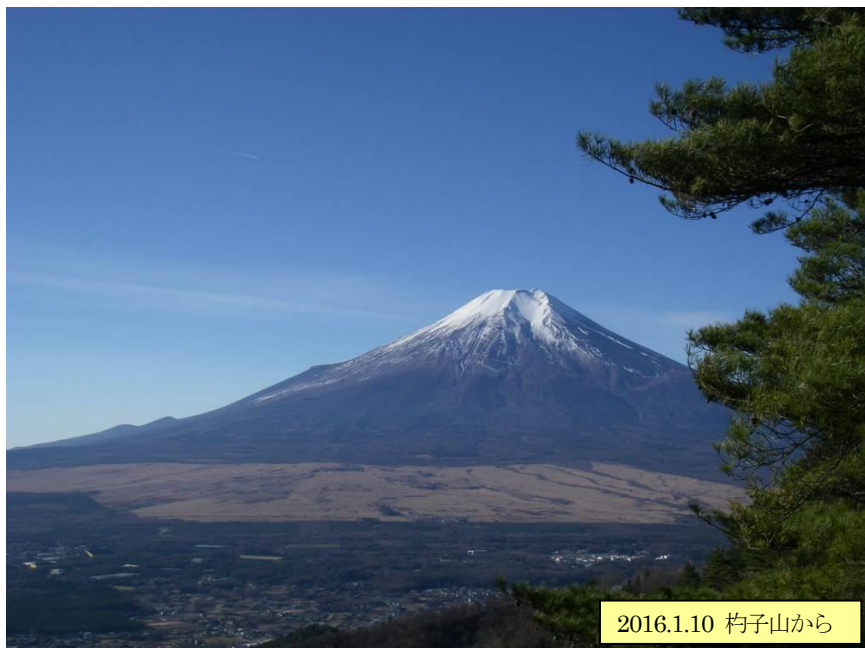


謹賀新年



2016.1.10 杓子山から

2016年 あけましておめでとうございます

今年も活発な活動をよろしくお願ひします。

創立50周年を記念する北アルプスリレー縦走や
記念レセプションを成功させる年となります。
学習・訓練・体力造りに励み、楽しく元気に 登りましょう！
遊びましょう！ 歌いましょう！ 飲みましょう！

大町労山会長 谷口 伸二

12・1月の例会・拡大役員会報告(抜粋)

1；12月12日～1月26日の山行・行事報告 ……12/5忘年会以降

- ① 12/12(土) **忘年会** 20名：井川・石井良・石井ひ・尾形・勝野・桑原・神津・古畑・古畑文・小山・佐藤・鈴木・谷口・津田・土田・鶴川栄・鶴川栄子・長島・外2(斉藤・堀口)
- ② 12/8(火) **茅ヶ岳**：勝野・古畑文・鈴木・鶴川・外3(佐藤・もたい・堀口)
- ③ 12/12(土)～13(日) 送年山行(佐久)・**東天狗岳**：勝野・桑原・谷口
- ④ 12/18(金) **小川山**：勝野・古畑文・鶴川栄子・細田・宮島・外1(堀口)
- ⑤ 12/19(土)～20(日) **越百山**：鈴木+大阪泉州15
- ⑥ 12/23(祝) **赤岳**：勝野・小山・鈴木
- ⑦ 12/26(土) 18切符**高川山**：勝野・桑原・谷口・鶴川・宮島・古畑文・石井ひ・長島・津田・鈴木
- ⑧ 12/28(月)～1/2(祝) **南駒ヶ岳・空木岳**：勝野・外8
- ⑨ 1/6(水) 18切符**高尾山**：石井夫婦・佐藤夫婦・外1
- ⑩ 1/10(日) **杓子山**：谷口・桑原・津田
- ⑪ 1/14(木) **黒斑山**：谷口・臼井・勝野・細田
- ⑫ 1/16(土) **新年会**：小林・勝野・小山・古畑・古畑文・平林・尾形・石井良・石井ひ・桑原・谷口・鶴川栄子・臼井・神津・長島 計15名
- ⑬ 1/23(土) **鉢伏山**：谷口+佐久6
- ⑭ 1/23(土)～24(日) 県連雪崩レスキュー講習会・**妙高**：鈴木

当面の山行・行事

- ① 1月31日(日) **美麻権現山**・県連スノーシュー：現参加予定者6名
- ② 2月9日(火) **拡大役員会**：総会に提案する次年度の会費等について論議する重要な会です。役員はじめ多数の方の参加を！
- ③ 2月13日(土) **硫黄岳**：現参加予定者6名
- ④ 2月18日(木) **東天狗岳**：現参加予定3名



③ ; 検討中の議題 ～ 役員会・例会の出席者が必ずしも多くないので、資料として載せます。2月役員会・例会で引き続いて検討し、総会で決定します。

① 会費の見直しにかかわって

大町労山会計試算 (遭対基金を別にする)
会員数 29

月会費ひとり	会費収入	連盟費	会費収入 に対する 連盟費の 割合	大町労山 独自支出 可能予算
A	B	C	D	E
	$A \times 12 \times 29$	$330 \times 12 \times 29 + 3600$	$C \div B$	$B - C$
① 1000 円	348000	118440	34.0%	229560
② 900 円	313200	118440	37.8%	194760
③ 800 円	278400	118440	42.5%	159960
④ 700 円	243600	118440	48.6%	125160
⑤ 600 円	208800	118440	56.7%	90360
⑥ 500 円	174000	118440	68.1%	55560

参考

2015予算 799967円

会費358000 繰り越し435367

予備費・連盟費・遭対基金を除く支出予算 256000

予備費 344767 連盟費 102600 遭対基金 90000

2014支出決算
384684

うち大町労山独自支出(連盟費・基金・予備費を除く)
178464

連盟費 一人月330円
1会 3600円

$330 \times 12 \times 29 \text{人} + 3600 = 118440 \text{円}$

従来、繰越金が大きかったが、2015年度は50周年関係での支出が多く、これまでほど繰越金はないと思われる。

繰越金を考慮しなかった場合、2014支出決算は178464円であり、2015予算では、256000円である。

20万円程度の大町労山単独決算額を考えた場合、会費は②900円(年10800円)となり、事実上現在の一口遭対基金を含めた年12000円と大差がないことになる。できれば、月額800円程度にできないだろうか。

50周年関係支出は、予備費から出すことにより、2015年度通常支出が出てくる。

①の月額1000円を据え置けば、事実上の値上げになる。

- 左表とその下の説明分は少しわかりにくいですが、遭難対策基金の加入口数は、個人によって異なるため一般会計から除外し、純然たる会費で、試算したものです。
- 2014支出決算のうち、大町労山の独自支出=連盟費・遭難対策基金・予備費を除け

ば178,464円で、左表の②月会費900円にした場合、大町労山の独自支出可能額は194,760円以内になり、十分である。これでいくと、現行年会費11,000円とほぼ同じである。(概算であるため家族会員割引は計算していないが、現在廃止意見はない)
●繰越金が多いので、その扱いが一つの鍵でもあります。

② 他の会の会山行や忘年会等への参加のあり方について (メモ)

現行規約の付則第4条では、『山行への一般(会員外)参加は、山行部の許可するもの以外は禁止とする。また、一般参加の事故及びトラブルに関しては本会はその責任を負わない(バスハイクは例外とする)。』

※いつ頃決めたのか。これでいくと、現在の山行部は小林・谷口両氏になっており、その許可があればOKということになります。なお、「山行」という表現だけで、会山行・個人山行の区別等は記述がない。

12/8 拡大役員会の議論のまとめ (メモ) 注・結論や決定ではありません。

① 会山行への参加は、原則として会員のみとする。他の山の会員が同行する場合、本人が所属の会に山行計画書(届)を提出し、所属会の承認を得た上で、大町労山会山行への参加を認める。

② 個人山行に、他の山の会員や個人(無所属)が参加するとき、予め会長(山行部?)に承認を求め、誘った会員が責任を持って行動する。その際、個人が何らかの山岳保険に加入していることを確認する。

いずれにせよ、計画段階で、会山行か個人山行かを明確にしておく必要があります。そして、会山行であれ、個人山行であれ、参加メンバーの中で違和感がないよう、交流に努めなければ、楽しい山行にならないと思います。

大町労山山行への他の山の会員や個人が参加して事故・ケガ等がおこったとき、現行規約の付則にある「本会はその責任を負わない」といくら書いてあっても、今日の情勢では、少なくとも道義上全く責任を負わないことは通用しないのではないかと思います。(交流山行的な別パーティで同じ山に行く場合は、全く関係がありません)

※文にするようなことでもないのですが、

忘・新年会は、原則として会員外の参加はご遠慮頂く。会員が他の会の知人等を個人的に誘う場合、予め会長の承認を得た上で、当日会員全参加者に違和感のないよう配慮する。

③ その他

●例会ごとにスライドショーを行う

●山行記録係は、計画書の段階で決めておく

各山行の公式記録を保存するため、記録係りを設けて計画書に盛り込みます。

山行報告 青春 18 キップで行く 高川山

12月26日(金) 報告者; 長島 八三

同行者; 石井ひ, 勝野, 桑原, 古畑文, 鈴木, 谷口, 津田, 鶴川栄子, 宮島,



忘年会の席上で誘われて参加を決めたのですが、今までは夏山だけで、この時分には山に行ったことがなく衣類の準備も不安がありました。スノーシュー用も兼ねるズボンを1本購入しての山行でした。

当日の白馬の天気予報は雪。中止かな? と思って山梨の天気予報を見ると晴れ。いつもは夢の中の時間に鈴木さんの車が来て出発。北細野駅に集合し5:48発の電車に乗車。松本乗り換えで初狩駅9:20までのんびり・うとうと。

駅からは案内表示もしっかりしていて墓地の脇を歩いていくと上からおりて来る車とすれ違う。山道に入り登り出すと汗がじわりと湧いてくる。防寒対策として着てきたフリースと上着をザックに入れて歩行。道は男坂と女坂に分かれたので、緩やかな女坂を選ぶ。合流点では男坂を歩いた方が先に休憩していた。頂上付近からは雲に隠れているが富士山が見える。

頂上には先着3グループ等30人ほどがいて結構の賑わい。富士山もよく見え人気の山なのでしょう。ぬかるみもあり東南の斜面に落ち着き昼食。ビールやワイン持参の会員はさすがに経験豊富、より楽しい山行を心得ている。山頂で飲むビールは最高!!

午後の下りは思いの外の急斜面で、落ち葉と霜柱の溶けた斜面で滑り尻餅をつく方も数人出る始末。先頭の勝野さんの説明でゆっくり歩いていたら、後から『遅れているからスピードをあげて』の声でテンポを上げたが、最終地点のおむすび山はなかなか見えない。下りの半分も行かない天神峠では20分程度の遅れ? このままで

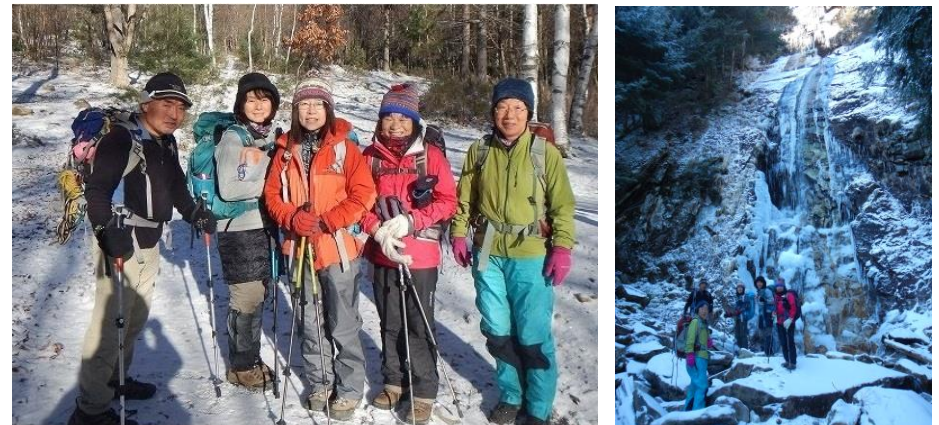
は5分しかない大月駅での乗車は困難と判断して下山し、国道を歩くこととなる。この下山道は落ち葉も積もってあまり利用されていない様子。

国道におりてから早足で大月駅に。おかげで乗車時刻の15分前には駅に到着し、14:45に無事に乗ることができた。ボックスシートもない横シートの車内で、駅売店で購入したビールと熱燗で乾杯。国道を歩くのも結構きつかったな一。

山行報告 小川山 (2418.4m) 12月18日(金)

報告者; 宮島順一 同行者; 勝野, 古畑文, 鶴川栄子, 細田, 宮島, 外1

12月18日(金)小川山に登るべく安曇野ICから長坂ICに向かった。川上村に向かう途中は八ヶ岳連峰が白雪を頂き青空に映えて大変すばらしい。高原野菜の畑を抜けて金峰山荘に到着。付近はうっすら前日に積もった雪で白い。準備をして8時半出発。凍っている登山道を慎重にのぼること1時間「唐沢の滝」に到着。登山道脇には巨石がゴロゴロしており岩登りのメッカであることが十分わかる。滝は一部凍結し迫力がある。10時15分、分岐になる尾根にやっと到着し太陽が当たる場所にでた。尾根道は凍結しておりアップダウンを繰り返し小川山に到着したのは12時40分。頂上は樹林帯で眺望はきかないが、頂上手前で金峰山や五丈岩を確認することができた。昼食を食べたあとアイゼンを装着し下山にかかる。下山は途中の分岐をまっすぐ進み金峰山荘に向かうコースを選択した。このコースはハシゴがあり岩山でアイゼンを履いて歩くには大変であった。駐車場には4時10分到着。時間も遅くなるので温泉には行かず一路安曇野ICに向かった。



発掘～平郡島縦走路(2) 長深山・後 森田 義彦

11月12日(木)

前日に続いて長深山ルート調査の2回目。海は相変わらず時化ているが今日は相方のF氏が漁船でなくフェリーで来ることになっており、9:20に西港船着き場に着いて待つ。9:33にフェリーが着き初対面の挨拶もそこそこに歩き始める。

途中のベンチでルートを確認。F氏が用意した地図によると、長深山に向かうルートは2本あり、1つは前日自分が歩いたルートで、もう1つは鶴甫と言う地区よりも先の方から入って長深山の山頂は通らずに東隣の深山に至るもので、史実に詳しいF氏はこちらの方が古い道らしいと言ったが、今回は取り敢えずハッキリしている道を迎えることにして前日と同じ登山口に向かう。但し、市道からの入り口は前日より5m先の川沿いの道で、その道は上の方で合流して9:51に最終民家を通して山道に入る。

その道を前日とは違ってまっすぐ進めばみかん畑の小屋がある柵の入り口に到達するものと思い、Sさんと言うみかん農家のご夫婦に会ってから行こうとこの時は思っていた。その道はつづら折りになっていて思ったより長く、途中の両側にも立派な石垣の柵畑があったが、いずれも耕作されなくなってから相当の年月を経ているらしく太い木が繁茂して薄暗かった。

5分ほど休んで歩き始めてすぐの10:09、前日と同じ小屋に出てハタと首をひねる。みかん畑の向こう側の入り口に着いて畑を通らせてもらってここに出て来るものと思っていたのが外れて、前日のような藪漕ぎをすることもなく尾根道に出られることになる訳で、これは出張所長さんの説明とも違っていた。

とまれ畑を通る労なく登山道に入ることが出来、10:11に前日と同じようにみかん畑を見下ろし、10:16に同じ石垣の階段を登り、10:23には同じ目印に新しい目印を施して順調に進む。10:28、ひときわ太くて高く抜きんでている松を見てこれがS夫人の言っていた大きな松の木であろうと見当をつける等しながら順調に登り、10:35にNTTの反射板に至る。

ここでF氏が『かつて友人が少し先から入ってここで合流して』いると言ったので、別の道があるのかもしれないと思って奥の方に分け入って見たが道は見つからず、しかしその先にも石垣の柵畑が続いているところを見ると道があったであろうことは想像できた。

10:39発。そこからが道なき道～と言うよりあったとしても荒れて通れない道になる。S夫人が『何回も登った。道はある』と言っていたので、目印を追って注意深く登ることにした。

確かに昨日目印を見失った地点からも目印は続いて、それを追っていくと道は

右の方に大きく屈曲していたが、やがては尾根の中央部に戻り、横倒しになった木の真ん中に赤いテープが巻かれた見覚えのある場所に戻った。つまり前日は遮二無二直進していたことになる訳で、それでも正解だったということだ。

そこから先にも石垣があり、F氏は中央の階段を登って直進しようとしたが、自分は前日の経験から石垣を無理に突破しようとして道を見失ったが、石垣の左右いずれかの脇に道はある筈だと考え、この場所では石垣に沿って左手に進むと、倒れかかった木や蔓に阻まれてはいるがしっかりした道があることが分かった。

こうして着実に目印をつけながら前進し、11:28に前日のナタメを発見。そこから木の間越しに空が見え、11:29に前日の到達点である前ピークの広場に着く。さらにそこから太陽の方向に向かって緩やかな斜面を南進し11:36に三角点のある山頂に到達して目的を果たす。

その後は12時をリミットとして深山方面に歩いてみようと言うことになり、南東に向けて斜面を下る。11:46に明瞭な道を見つけ、そこに二重の印をしており返す。この道は長深山の山頂を通らずに主脈に出て深山に向かう道で、F氏によると明治時代以前からすでにあつたとのことで、山頂を通らず巻いていることにも意味があると言う。どう言う歴史があるのか知りたいところで、その起点の特定を含めて次回の課題となる。

そこから先の深山へのルートは、主脈を外さないようにしながら障害物を避けて進めば遠からず踏破できるという感触を得た。ここまでの経路を含めて、一帯は外側から見れば分厚い森林であるが、マントの中は長年に亘って日光の恩恵を受けない状態で下草などの繁茂がなく、倒木と蔓植物が障害になるだけなので、道を拓くことはそれほど難しくはないと言うのがその根拠であり感想でもある。

12:01に三角点、:03に前ピークを通過して下山開始。自分達のマークを辿って難なく下り、所々に新たな目印をつけ加えたりしながら順調に下って、12:49に反射板、13:06に海を見下ろす場所を通過。13:10にみかん畑の柵を越えて中に入る。そこから逆に表側の入り口に行くとSさん夫妻に会いに行こうとしたところ、その畑はSさんの小屋のある畑ではなかったことが分かり、引き返して元の道を下る。その謎が分からないまま最終農家まで下ると玄関に若い男性がいて、話を聞くとその人はS夫妻の子息で、2人は今日のみかん畑にいるとのこと。結局その謎は解けぬまま市道まで下がり、魚類供養塔を見たりして14時に船着き場に戻り終了となる。

今回の調査で深山まではすぐにも行ける見通しがついた。夏場より冬の方が落葉する分だけ見通しがよくなるので、近いうちに深山までを歩き、更に深山から東地区の大嶽・大滝山に至る全縦走路を再発掘したいと思っている。

続く